

北海道ブロック支部役員改選のお知らせ

北海道ブロック支部の代議員による投票により、2026年度～2027年度の幹事・監事が決定いたしました。メンバーは以下の通りです。

幹事 (15名)	阿部 計大	北海道大学大学院 医学研究院 医療政策評価学	新
	今江 章宏	寿都町立寿都診療所	再
	大久保 彩織	勤医協札幌病院/ファミリークリニックさっぽろ山鼻/生涯医療クリニックさっぽろ	再
	大塚 亮平	手稲家庭医療クリニック	新
	加藤 聡一郎	道東勤医協 釧路協立病院	再
	佐々尾 航	白老町立国民健康保険病院	再
	笹岡 佑樹	医療法人 溪仁会 札幌溪仁会リハビリテーション病院 薬剤科	再
	佐藤 弘太郎	医療法人 北海道家庭医療学センター 本輪西ファミリークリニック	再
	田村 英俊	寿都そよかぜ薬局	再
	中島 徹	医療法人 北海道家庭医療学センター 向陽台ファミリークリニック	再
	堀 哲也	北海道社会事業協会 帯広病院 総合診療科 / 北海道家庭医療学センター	新
	村上 学	北海道大学大学院 医学研究院 医学教育・国際交流推進センター	新
	山口 章江	十勝勤医協 帯広病院	再
	山崎 礼子	医療法人 北海道家庭医療学センター 栄町ファミリークリニック	再
渡部 和也	寿都町立寿都診療所	再	
監事 (2名)	小嶋 一	手稲家庭医療クリニック	再
	山田 康介	更別村国民健康保険診療所	再

(敬称略)

2026年6月6日(土)にオンラインで2026年度第1回幹事会を新メンバーで行いました。その場で、幹事の中から4名が副支部長に指名されました。

以下、副支部長の挨拶です。

発行人

支部長 木佐 健悟 北海道ブロック支部事務局 (市立美唄院内)

TEL:0126-63-4171

<https://primarycare-hokkaido.com>

病院家庭医として、地域包括ケア病棟と総合診療科外来で主に働いております。専攻医教育、リハビリ栄養、経口摂取支援にも関わっております。北海道ブロック支部では、これまで若手医師学生支援委員会の活動を主に行ってきました。学生が総合診療の道を選ぶきっかけ作りや、選んでくれた専攻医が研修を終えられるような支援を引き続き行っていきたくと考えています。よろしくお願い致します。

(釧路協立病院 総合診療科 加藤 聡一郎)

この度引き続き副支部長を務めさせていただくこととなりました佐々尾航です。今年3月まで13年間道立羽幌病院に勤め、4月より白老町立国保病院で勤務を始めました。副支部長として若手医師学生支援などを中心に担当させていただいてきました。総合診療・家庭医療のネットワークが北海道でも広がるよう、これからも尽力してまいりますので、引き続きよろしくお願いいたします。

(白老町立国保病院 佐々尾 航)

室蘭市、登別市で家庭医療診療所と、所属組織で学術・研究の担当をしています。木佐支部長の元、オール北海道で総合診療を盛り上げていけるように微力ながら尽力して6年目になります。学生・若手からベテランの方々までプライマリ・ケアの裾野が広がり、さらに日々の臨床に役立つように活動できればと思っております。どうぞ宜しくお願いします。

(北海道家庭医療学センター本輪西ファミリークリニック 佐藤 弘太郎)

帯広市にある48床の地域包括ケア病床の病院の薬剤師をしておりますが、今年度からは技術部長として医療専門職の管理も担当しています。また、JPCAの医療の質・患者安全委員会にも所属しており、委員会活動を通じて、患者協働や多職種による診断プロセスについても学んでいます。北海道ブロック支部にパワフルな多職種が増え、道内各地のプライマリ・ケアチームが強化されるよう活動してまいります。よろしくお願いいたします。

(十勝勤医協帯広病院 山口 章江)

若手医師学生委員会の学生向け企画

若手医師学生委員会の学生向け企画について、2025年度の北大、旭川医大での学習会については前回のニュースレター48号でご紹介しましたが、今回は札幌医大の学習会について、学生の永森さんがまとめてくれましたのでご紹介します。

講演会を通しての感想

札幌医科大学6年の永森志緒音です。札幌医科大学でPCLG (Primary Care Learning Group) として活動しており、今回学会との共催で総合診療の学習会を開催しました。昨年度は、総合診療についてみんなにもっと知ってもらいたいという思いから、総合診療とはどういう医療かということテーマに開催しました。総合診療に興味を持つ仲間が増えてきた今年は、自分たちの将来について、より具体的に考えていきたいという意見もあり、本校卒業生で北海道地域枠(特別枠)の杉本貴子先生にご講演をいただきました。また、地域枠のお話というのは、札幌医科大学受験を考えている高校生にとっても有意義な話ではないかと思い、対象を高校生にも広げて募集したところ、30人を超えるご参加をいただき、大変賑やかな会となりました。高校生の中には、医学部という道だけではなく、地域医療に興味があって参加してくださった方もおり、同

じ意志を持つ仲間が高校生にもいることを知り、大変嬉しく思いました。以下に参加者からの感想を一部記載いたします。

- ・総合診療科の先生がどのようにキャリアを歩んでいくかというお話が非常に参考になりました。
- ・家庭医療では、医師が患者と深く関わることに驚きました。患者の家庭内の悩みなどを聞いたり、相談に乗ったり、ケアマネージャーに近い医師の新たな一面を知りました。
- ・総合診療医という仕事を自分の将来の選択肢として考えたことがなかったので今回の話を聞くことができ自分の選択の幅を広げることができたと思っています。地域枠についても知れてよかったです。
- ・高校生でもわかりやすい言葉遣いや内容で、総合診療科を目指すものとしてすごく勉強になるお話でした。ありがとうございました。
- ・訪問看護で患者のご家族さんが納得いくような最期を迎えることができたということを知り、医療職全体で患者さんという、人を診る事の大切さを感じました。

入局後の働き方や札幌医科大学総合診療専門研修の内容について、そしてさらに家庭医療専門研修や総合診療専門医取得の流れについてここまで丁寧なお話を聞いたのは初めてであり、6年生の私には、自分のキャリアを考える上で非常に学びのある時間となりました。

また、自分と比較的年の近い先生が、総合診療、家庭医療という領域で実際に働き、日々充実しているというお話を聞き、改めて、総合診療や家庭医療への魅力を感じました。

本講演会の開催にあたり、ご協力いただいた全ての皆様に御礼申し上げます。

(札幌医科大学PCLG 永森 志緒音)



新専攻医オリエンテーション開催のご報告

4月25日（土）にレンタルキッチン東洋（札幌市北区北7条西5丁目5）で新専攻医オリエンテーションを開催しました。合計8人の新専攻医の先生方にお集まり頂きました。

前半では、専門研修の全体像を見渡せるようなレクチャーを家庭医療専門研修が終了したての石塚浩暉先生、専攻医3年目の中原宏和先生に行って頂きました。

後半では、委員会のメンバーがファシリテーターとなり実際に振り返りを行ったり、ポートフォリオの書き方

を専攻医3年目の渡邊由桂先生の実例を交えて体感して頂いたりしました。全道各地から、お忙しい中お集まり頂き、ありがとうございました！

(若手医師学生支援委員会 委員長 / 釧路協立病院 総合診療科 加藤 聡一郎)



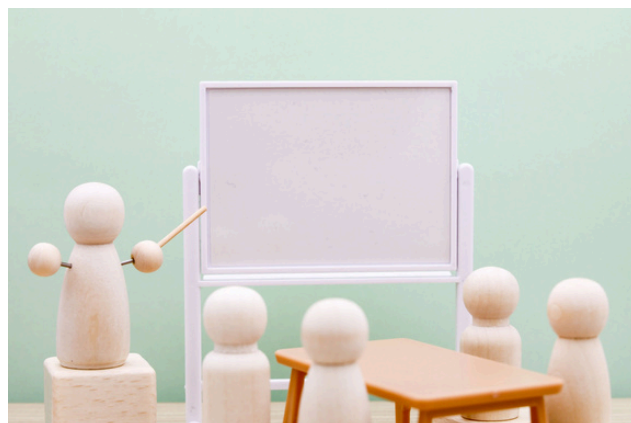
第13回 北海道プライマリ・ケアフォーラム開催のお知らせ

きたる2026年11月14日（土）、「かでの2・7」におきまして、「第13回北海道プライマリ・ケアフォーラム」の開催をご案内申し上げます。実行委員長を務めます、北海道家庭医療学センター 家庭医療専攻医の中駄勇太と申します。

今年度のテーマは、『つながる安心、深まる自信、もっと広がる探究心』です。

多様なバックグラウンドを持つ参加者同士が地域や職種を超えてつながり、互いの多様性を尊重し合いながら、誰もが心地よく集える「安心」を感じられる場にしたい。そしてそれを土台に、日々の現場でプライマリ・ケアを実践していく「自信」を深め、さらにはプライマリ・ケアが内包する広大な世界への「探究心」を共に育てていきたい——。そんな思いから、このテーマを掲げました。

職種や経験年数を問わず、医療に携わるすべての方々が一堂に会し、自由に語り合える場にするべく、実行委員一同で準備に励んでおります。特に、プライマリ・ケアに興味のある学生や若手医療者の皆様には、このフォーラムを通じて、その「ワクワク感」を肌で感じ、将来につながる学びや繋がりを持ち帰っていただけると幸いです。



基調講演には、国民健康保険志摩市民病院の江角 悠太先生をお招きいたします。ご講演のテーマにつきましては現在調整中であり、詳細が決まり次第改めてお知らせいたします。

今年度も参加型のワークショップを6つのテーマをご用意しております。普段なかなか経験できない体験型学習や、皆様の業務に直結する実践的なテーマなど、多角的な視点からプライマリ・ケアを深掘りできる内容を鋭意準備中です。詳細が決まり次第、改めてご案内いたしますので、どうぞご期待ください。

実行委員一同、皆様にとって実り多い一日となるよう、準備に尽力しております。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

北海道ブロックプログラム責任者協議会 支部代表就任のご挨拶

手稲家庭医療クリニックの大塚亮平です。前任の佐々尾航先生よりバトンを引き継ぎ、北海道ブロックプログラム責任者協議会の支部代表を務めさせていただくこととなりました。馴染みのない方も多いと思いますが、「プログラム責任者協議会」は、一言で言いますと、新・家庭医療専門研修プログラムの責任者の集まり・ネットワークです。支部内のプログラム責任者との情報共有のほか、学術大会・秋季セミナーでの専門研修プログラム関連の企画運営に携わったり、全国の各ブロックのプログラム責任者と専門研修における動向について情報を共有したりします。北海道には14の家庭医療専門研修プログラムがあり、毎年地方会に合わせて、道内のプログラム責任者が集まって、プログラム運営における困りごとや疑問を共有し、意見や情報を交換する場を設けています。家庭医療専門研修プログラムのプログラム責任者のみでなく、総合診療専門研修プログラムの責任者にも広くご参加いただいています。研修プログラム運営においては、プログラムの規模や歴史、その地域の医療体制などにより様々な課題があり、プログラム責任者が孤軍奮闘していることも少なくありません。日本専門医機構が運営する総合診療専門医制度と、日本プライマリケア連合学会が運営する新・家庭医療専門医制度の二つの制度が絡む研修であり、専攻医も指導医も制度の理解に苦労していることもあります。この協議会は、そうしたプログラム責任者が孤立せず助け合えるピアサポートの機能を持っています。道内それぞれのプログラムが持つ経験や知恵を持ち寄り、互いに学び合いながら、北海道の家庭医療プログラムをより魅力あるものにしていけるよう、微力ながら尽力してまいります。どうぞよろしく願いいたします。

北海道ブロック支部 広報委員会 編集後記

毎回ニュースレターをお読みいただき、ありがとうございます。北海道ブロック支部では今後の行事予定の紹介とともに、活動の記録をニュースレターで残すようにしています。今回は支部の役員改選の次期と重なったことから、支部長の私が担当した簡略化バージョンでお届けします。レイアウトは広報委員もお願いしている笹岡幹事に手伝っていただきました。

これから2年、今までの良いところは継続しつつ、北海道のプライマリ・ケアに貢献できるように皆様と一緒に新たな挑戦もできればと思っております。引き続き、よろしくお願い申し上げます。

